

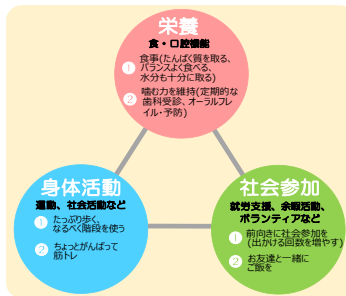
第15回 多職種勉強会を開催しました！

2/18(金)に「Let's 介護予防!!～知ることから始める～保健事業と介護予防の一体的実施と元気高齢者を増やす取り組み」をテーマに多職種勉強会を開催しました。今回も、オンラインのみの開催で、約116組の方々にご参加いただきました。

はじめに、松阪市高齢者支援課 世古主幹より、来年度から松阪市で開始される「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施について」の説明がありました。

話題提供では、くろい歯科クリニック 院長 黒井建志先生、松阪地区歯科医師会 口腔ケアステーション 歯科衛生士 小山恭子先生、花の丘病院 リハビリテーション科 理学療法士 森優太先生の3名にご講義いただきました。【介護予防の3つの柱】

黒井先生からは、口腔機能の低下は、全身の健康に関わるため、お口の健康の維持がとても大切というお話をいただきました。そして先生が毎日取り組んでおられるフレイル予防の紹介もいただきました。小山先生からは、介護予防事業の取り組みのお話と吹き戻しなどを使ったトレーニング方法を動画を交えながらワンポイントレッスンいただきました。森先生からは、住民主体の通いの場の紹介やその効果について、リハビリテーション専門職の視点からお話をいただきました。最後は、多職種勉強会の部会長 花の丘病院 木村圭佑先生よりご講評いただきました。介護予防は、医療・介護に関わる専門職にとって、とても関わりが深く、また、早い段階で支援を開始することで、機能低下の維持や改善につながることから、多職種連携の大切さがよくわかりました。



～参加者の方々からの感想～

- ・黒井先生のモーニングルーティンが楽しく、自身も通勤時に取り入れようと思いました。
- ・トレーニング方法も身近にある物で作成できるので、患者様におすすめしようと思います。
- ・吹き戻しの紹介について、呼吸リハビリが手軽で楽しくできると、参考になりました。
- ・それぞれの専門分野での具体的な取り組みや事例の紹介があり、今後の連携への参考になりました。多職種が連携協力することの重要性を改めて感じました。
- ・集いの場の効果がとても高く、素晴らしいと思いました。
- ・機能低下のチェックポイントを振り返ってもらえて良かったです。それらで気になる人がいたら誰もがかかりつけ医につなげたり、集いの場へつなげたり、早い段階で専門家につなげよう、という講評がとてもわかりやすかったです。他人事にせずにつなぐことの大切さの話も良かったです。(勉強会アンケートより抜粋)

連携拠点到らせて

来年度、連携拠点は5年目を迎えます。そこで、連携拠点の立ち上げから今に至るまでの経過をよくご存じの松阪市地域包括ケア推進会議 運営幹事会 会長の志田幸雄氏より、節目を迎える連携拠点到らせていただいたメッセージをご紹介します。

連携拠点の今後の方向性について

松阪地域 在宅医療・介護連携拠点は、早いもので開設5年目を迎えました。これもひとえに拠点職員の皆さん、日頃より連携を密にしている多職種の皆様の日々の努力の賜物と思います。開設当初、連携拠点とは何ぞや？その必要性は？からスタートして、地域包括ケアシステムにおける専門職の“砦”あるいは、“知恵袋”として様々な相談、支援や事業を行ってまいりました。ところが、一昨年からコロナ禍を迎え、拠点業務の重要ポイントといえる、直接現場へ出向き多職種の方々との問題点の共有や連携の足掛かりを作っていく業務が困難となってきています。そんな厳しい状況の中で拠点業務も少しずつ変化し、コロナ禍における新しい連携拠点の役割も、増えつつあります。在宅医療や高齢者施設における新型コロナ対応に対する相談、病診連携やワクチン接種に関する相談・情報発信等、新しい拠点の役割に含まれてきた様に考えます。今こそ、拠点の事務局が松阪地区医師会館内にある強みを生かして、原点を忘れることなく、時代のニーズに即応したフレキシブルな拠点運営が必要といえます。

- 松阪地域 在宅医療・介護連携拠点
- ◇平成30年4月に松阪地区医師会館に設置
- ・松阪市と多気郡3町が実施主体
- ・在宅医療や介護を支える専門職が質の高い連携を実現するための相談・支援を行う機関
- ・構成員は、社会福祉士と看護師、事務員



在宅医療・介護の連携推進の方向性

- 疾病を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるためには、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが、必要である。
- このため、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、市町村が中心となって、地域の医師会等と緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を図る。



多職種紹介リレー

バトンは、松阪社協松阪支所居宅介護支援事業所 介護支援専門員の高村聡さんから、次に大台町地域包括支援センター 主任介護支援専門員の本下聡子さんに引き継がれました。今回初めて、松阪市内から大台町へバトンが繋がりました。これからも地域のつながりの輪が広がっていくことを願っています。🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

こんにちは。私は、子どもの頃から運動が苦手なリレーでは6年生の時に3年生に追い越される始末。運動会が嫌で泣いていました。そんな私もペンのバトンならと受け取りました。



さて、地元愛に溢れた私は平成8年に大台町社会福祉協議会に入社。平成27年から大台町役場の地域包括支援センターへ主任介護支援専門員として出向しています。この8年で思うことは、仕事はチームワークに左右され、向き合い方も変わるということです。

メンバーで話すのですが、困難事例とは、自分たちが困難と感じているから困難事例になる。経験、専門性を生かしながら協力し合い業務にあたり、困難事例という言葉が出ないのも大台包括の特色です。

次に私についてお話しします。日頃心掛けていることは、姿勢良く過ごす、笑顔で明るく、迅速に動く、ポジティブ思考でどんな時も楽しむ心を持つことです。座右の銘は、職場の男性が言ってくれた言葉で『年齢はただの数字』、もう一つは『人生は一度きり』で毎年「この1年が一番良かったな」と思い48年過ごしてきました。

趣味についてですが、1つ目は旅行。顔出しパネルが好きで旅先では必ずパネルに顔を入れています。2つ目は、年に2回程、伊勢市や松阪市のフレンチレストランで食事し、料理、器、音楽、生けられた花をゆったりと楽しむことです。3つ目は映画観賞で、娘と、または1人で映画に浸ります。1人時間も自分磨きには欠かせないことだと思っています。4つ目は料理です。10年前に家庭料理を教える教室に3年間通っていました。習ってきた料理を両親が栽培する新鮮な野菜を使い2人



の娘に教えてきました。管理栄養士を目指している娘たちが県外で暮らしてからは、自宅に友人を招き得意料理を教え合っています。得意料理はジビエの鹿肉フライです。新しい挑戦は手話を学んでいることです。みなさま、元気がなくなったらパワースポットの太台町へお越し下さいね。わたくしがお待ちしております。

木下さんからバトンを受け取っていただいた方を次号で紹介いたします。お楽しみに。

来年度事業に向けて

連携拠点では、事業の1つとして、松阪地域の医療機関や介護事業所などの資源に関する情報の把握を行い、マップやリストを作成しています。

昨年10月には、三重県介護支援専門員協会松阪支部の会員の方々にご協力いただき、「介護資源の情報に関するアンケート」を実施しました。

有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅などの高齢者の住まいの情報収集を行うにあたって、“こんな情報があると役立つ情報項目”について尋ねました。この結果をもとに来年度、情報の把握を行っていきます。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

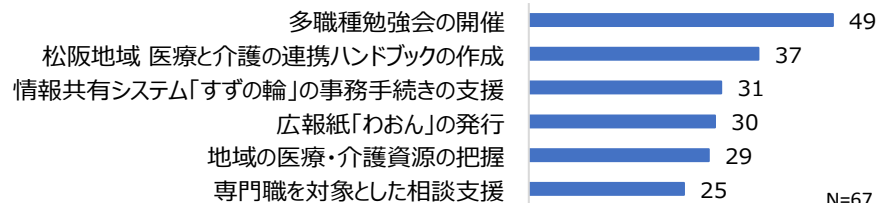


また、連携拠点の認知度を知るために「連携拠点がどんな事業をしているか知っていますか？」についても、同じアンケートで尋ねました。少し意外な結果でしたが、もっと連携拠点のことに知ってもらえるよう周知を進めていく必要があると感じました。早速ですが、連携拠点では、医療・介護の専門職の方々からの、医療・介護に関するご相談を受け付けています。電話や来所、相談フォーム(右記のQRコード)でご相談ください。



問い合わせフォーム

連携拠点がどんな事業をしているか知っていますか？(複数回答可)



今回“わおん川柳”は、お休みします。不定期で続けていく予定です。募集の際は、情報共有システム「すずの輪」等でご案内します。



あとかき 🎵🎵🎵🎵🎵

春の訪れを感じる今日この頃。マスク生活も3年目を迎え、素顔を知らない方々も増えました。なんだか不思議な感じです。今回の「わおん」は、お二人にご寄稿いただき、とてもにぎやかになりました。次回は夏頃を予定しています。🌸

松阪地域在宅医療・介護連携拠点

〒515-0076 松阪市白粉町363番地
(松阪地区医師会館1階)

TEL:0598-25-3070 FAX:0598-25-3071

メール:ks-shien@city.matsusaka.mie.jp

◇月～金 9:30～16:00◇